

## 令和6年第10回総務文教常任委員会 要点記録

開閉会日時	令和6年12月12日（木曜日）		開会	13:25	会議場所	別海町議会 委員会室2			
			閉会	15:22					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	2 番	吉田 和行	出席	8 番	田村 秀男	出席
	14 番	佐藤 初雄	出席	15 番	戸田 憲悦	出席			
出席説明員	総務部長		総務部次長兼総務課長		総合政策課長		情報広報課長		
	伊藤 輝幸	出席	寺尾真太郎	出席	松本 博史	出席	山田 哲哉	出席	
	財政課長		税務課長		防災・基地対策課長		尾岱沼支所長		
	角川 具哉	出席	松田 勝広	出席	岩口 裕昭	出席	大坂 恒夫	出席	
	西春別支所長		総務課主幹		総務課主幹		総合政策課主幹		
	小村 茂	出席	佐藤 亮	出席	武田 聖士	出席	佐藤 貴也	出席	
	防災・基地対策課防災監		防災・基地対策課主幹		防災・基地対策課主幹		税務課主幹		
	三瓶 秀憲	欠席	深川 淳一	欠席	橋本 達也	欠席	武田 妙子	出席	
	広報情報課主幹		防災・基地対策課主幹		財政課主査		財政課主査		
	伊藤 武史	欠席	寺澤 淳司	欠席	高橋 克彦	欠席	浦部 裕美子	出席	
	総合政策課主査		総合政策課主査		税務課主査				
	人羅 茜	欠席	大西 廣和	欠席	竹本 誠	欠席			
	選挙管理委員会		書記						
	書記長		書記						
	寺尾真太郎	出席	佐藤 亮	出席					
	別海消防署		別海消防署副署長		別海消防署副署長兼予防課長		別海消防署警防課長		
	山田 勝人	欠席	山桑 貴光	欠席	西塚 隆幸	欠席	太田 裕司	欠席	
	教育部長		生涯学習センター長兼中央公民館長		指導主幹		指導参事		
	宮本 栄一	出席	福原 義人	出席	稲村 和典	欠席	瀬川 航平	出席	
	学務・スポーツ課長		学校教育課長兼学校給食センター長		生涯学習課長		西公民館長		
	斎藤 陽	欠席	池田 卓也	出席	木戸口 誠	出席	小村 茂	出席	
	東公民館長		図書館長・郷土資料館長他		学務・スポーツ課主幹		学務・スポーツ課主幹		
	大坂 恒夫	出席	堺 啓	出席	高津 寛人	欠席	立澤 雅彦	出席	
	生涯学習課主幹		学校給食センター主幹		中央公民館副館長		西公民館副館長		
	恒川 敦史	出席	平下 奈津子	欠席	今野 学	欠席	佐藤 政士	欠席	
	東公民館副館長		郷土資料館副館長		郷土資料館主幹		学務・スポーツ課主査		
	福原 仁史	欠席	石渡 一人	欠席	戸田 博史	欠席	武田 文吉	出席	
	学校教育課主査		学校教育課主査		図書館主査				
戸野 晶雄	欠席	高橋 美香	欠席	吉田 美奈子	欠席				
委員外の出席							合計	0名	
事務局職員	局長	干場 富夫					合計	1名	
傍聴者数	一般	0名	報道関係者	0名			合計	0名	

# 令和6年第10回総務文教常任委員会 要点記録

## 会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 14番 佐藤	13:25 開会 出席委員5名、欠席委員0名、委員外0名、会期1日 挨拶 【総務部所管事務調査】
総務部長 伊藤	挨拶及び概要説明 ・本日の概要について説明させていただく。定例会提出議案の付託案件ではないが、議案第76号・77号・第78号・第85号・第91号について何かあればお答えする。また、所管事務調査事件として「地域おこし協力隊推進事業について」を説明させていただく。その他として「行財政改革実施計画の策定について」及び「別海町職員人材育成・確保基本方針の策定について」を報告させていただく。
委員長 14番 佐藤	・議案について何かあるか。
副委員長 8番 田村	・補正予算の関係だが、別海パイロットスピリッツ運営支援事業について、企業版ふるさと応援寄附金を充当するが、寄附金を充当することとした理由を伺う。
総合政策課長 松本	・個人版ふるさと納税の場合は、条例に規定されている用途に関して、寄附される方に選択肢を用意させていただいている。入った寄附は事業区分ごとのふるさと応援基金に積み、それぞれの用途ごとに管理をしている。その積立の状況を見ながら、総合計画の実施計画に基づいて充当計画を立てて寄附を活用している。一方、企業版ふるさと納税の場合は、地域再生計画に掲げられた町の事業に関して、寄附者の意向で具体的に指定される。計画にある取組の場合は、相手方の意向に沿って活用することとなる。
副委員長 8番 田村	・企業版でないふるさと応援寄附金は活用できないのか伺う。
総合政策課長 松本	・使えないわけではないが、球団設立に当たっての運営資金については、企業版ふるさと応援寄附金も含め調達やスポンサーを募る内容から、個人版ふるさと応援寄附金は充てていない。
委員 2番 吉田	・企業版ふるさと納税について制度の概要を伺う。
総合政策課長 松本	・企業版ふるさと納税を受け付けられる前提は、地域再生計画を国に提示しなければならず、併せて定期的に申出を受けている。その計画に記載しているものに対して、活用することになるが、その計画とはほぼ「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「総合計画」に掲げている事業なので、大半の事業は充当できることとなっている。
副委員長 8番 田村	・第7次別海町総合計画の変更だが、51団体とのヒアリングの際に、基本計画に項目を2つ増やしたことについて、意見があったかを含め伺いたい。
総合政策課長 松本	・団体ヒアリングを行ったのは総合計画の前半で、それぞれの団体が抱えている課題や行政に対する期待・要望などを聞き取ったので、具体的に基本計画の原案を示して意見は聴取していない。また、パブリックコメントは原案が固まってからご意見はいただいている。例えば、地区の教育施設の利用や自衛隊との共生などについてのご意見をいただいている。
委員 1番 市川	・第7次別海町総合計画のKPIだが、計画内の中間実績を見て、数字的にはなかなか難しいとも感じたが、あくまでも目標という位置づけか。
総合政策課長 松本	・基本的に策定時にKPIを令和10年度の目標として掲げているので通常は変更しない。ただ、あまりにも現実と乖離があるものについては修正をしなければならないと考え、今回修正しているものもある。また、KPIの達成に関しては、毎年度「A・B・C・D・E」を用いてそれぞれの政策ごとに評価をしていて、見直しの段階では概ね取り組んでいるものが6割以上あり、残りの4割は令和10年度までに解決に向けて取り組むこととなる。
副委員長 8番 田村	・KPIに関して、地域おこし協力隊の目標人数は100名だが、「延べ人数」で100名か。
総合政策課長 松本	・今回KPIで掲げているのは「延べ人数」となる。
委員 2番 吉田	・地域会館の関係だが、本年1月に委員会では報告を受けた指定管理者へのアンケートと同様に、次回も指定管理期間満了前に同様のアンケートを行う考えはあるか。
財政課長 角川	・次回は同様のアンケートをする予定はない。施設の老朽化が進んでいることもあり、費用対効果も含めて、今回行ったアンケートをもとに地域と協議をしていきたい。

## 令和6年第10回総務文教常任委員会 要点記録

委員長	14番	佐藤	・ほかに何かあるか。
委員		一同	・なし。
委員長	14番	佐藤	議事1 所管事務調査について
			(1) 地域おこし協力隊推進事業について
総合政策課長		松本	・資料により説明及び総務省の地域おこし協力隊紹介動画の視聴
委員長	14番	佐藤	質疑
委員	2番	吉田	・10月10日付け総務省通知で協力隊の定義が一部変わったとのことだが、改正になったことで本町における地域おこし協力隊員の活動や募集要項に変更が生ずるのか伺う。
			・今回の改正の広域性のある協力隊員の活動は大きなポイントなので、要綱の中に盛り込んでいく。
総合政策課長		松本	
委員長	14番	佐藤	・ほかに何かあるか。
委員		一同	・なし。
委員長	14番	佐藤	議事2 その他
			(1) 行財政改革実施計画の策定について
総務部次長		寺尾	・資料により説明
委員長	14番	佐藤	確認事項
副委員長	8番	田村	・第3次行財政改革は「大綱」が見えていないがその理由を伺う。また、各部の取りまとめを見ると、総務課に集中しているがその理由を伺う。
			・大綱がない部分については、今回15年ぶりの行財政改革ということで、業務の効率化を中心に計画した。基本方針的な大綱は令和10年度を目標に策定することとし、それまでの4年間は、計画内にある目標を1つずつ達成し、行革意識を醸成していきながら本格的な大綱の策定を目指したい。
総務部次長		寺尾	・基本方針による取組が総務課と情報広報課に集中しているのは、内政を担う所管部署なので、どうしても中心となり検討するのは総務課なので集中するのは必然となる。
			・基本構想・基本計画・実施計画はパターンなので内容を確認した。
副委員長	8番	田村	・ほかに何かあるか。
委員長	14番	佐藤	・なし。
委員		一同	(2) 別海町職員人材育成・確保基本方針の策定について
			・資料により説明
総務部次長		寺尾	確認事項
委員長	14番	佐藤	・令和6年度から人事異動については希望をとる取組をしているが、具体的な取組の中で「DX人材の育成」では、DX推進リーダーを30名とするなどの記載があるが、専門的知識が必要なことになっていく中で、複線人事を導入する考えはあるのか。
副委員長	8番	田村	・いままでは、総合職が求められていた時代であったが、各種政策を進めていく中では、職員がプロフェッショナルにならなければならないのか、それとも、外部人材に来ていただくかについても検討していくことで記載している。どちらがよいのかについては、ケースバイケースとなるが、検討期間の中で考えていきたい。
総務部次長		寺尾	
委員長	14番	佐藤	・ほかに何かあるか。
委員		一同	・なし。
委員長	14番	佐藤	挨拶
委員長	14番	佐藤	総務部 14:37 終了 休憩
委員長	14番	佐藤	14:45 再開 委員長挨拶
			【教育委員会所管事務調査】
教育部長		宮本	挨拶及び概要説明
			・本日の所管事務調査は、「小中一貫教育及び別海高等学校の魅力や支援事業について」のうち、「別海中央地区義務教育学校建設基本構想について」及び「青少年の居場所づくりに関する基本方針について」説明する。その他として「ワールドカップについて」を報告する。
委員長	14番	佐藤	議事1 所管事務調査について

## 令和6年第10回総務文教常任委員会 要点記録

		(2) 小中一貫教育及び別海高等学校の魅力や支援事業について
学務・スポーツ課主査 武田		・令和6年9月12日開催の令和6年第8回総務文教常任委員会以降の経過を説明する。耐力度調査については、小中学校共に9月14日から16日及び21日から23日の日程で終了。その後10月11日に基本構想の受注者である日本技研から耐力度調査の速報を受けるとともに、今後のスケジュールについて打合せをした。11月6日から8日に義務教育学校建設の先進的な事例を学ぶため、安平町の早来学園及び当別町の当別学園を視察し、建設までの過程・構造・総工費・財源・ランニングコストなどを調査した。11月12日には「第1回義務教育学校建設調査検討委員会」を開催し、視察内容や義務教育学校建設基本構想の進捗状況について報告し、現状の課題等について整理した。
		・資料により説明
委員長 14番 佐藤	質疑	
委員 2番 吉田		・資料では色々な施設タイプがあり選択肢があると思うが、教育委員会の考えを伺う。
学務・スポーツ課主査 武田		・教育委員会として希望するのは、中学校敷地で施設一体型の校舎を新築したいと考えている。
委員 2番 吉田		・地域との話合いの状況を伺う。
学務・スポーツ課主査 武田		・要望があった団体とは、要望が上がって以降協議の場は設けていないが、今後は地域協議会という形で、地域や学校と協議会を設立して、今後の計画について検討を進めていきたい。
委員 1番 市川		・施設タイプが施設隣接型だった場合、渡り廊下を設置する考えはないか伺う。
学務・スポーツ課主査 武田		・渡り廊下で小学校と中学校を繋ぐことも可能。
委員 1番 市川		・保護者や地域に提示する際には、グラフィックで見える化してほしい。
副委員長 8番 田村		・児童生徒数は何名と見込んでいるのか。
学務・スポーツ課主査 武田		・令和6年ベースで別海中央地区の児童生徒数は537名で、そこに中西別地区の児童生徒が35名いるので、トータルで572名の校舎を想定している。面積は延べ床面積で10,000㎡程度を予定している。
副委員長 8番 田村		・これから児童生徒数は減少していくと思うが、それを見込んだ建設となっていくのか。また、学級編成の見通しは文科省から何か示されているか。
学校教育課長 池田		・クラスの人気は、文科省では35人を段階的に広げている。現在、小学校4年・5年生くらいまで降りてきていて今後はもっと拡大される。また北海道においては、先進して1年早く進めている。本町では別海中央で当面は2クラスを維持できるようになっている。
委員長 14番 佐藤		・ほかに何かあるか。
委員 一同		・なし。
		(3) 青少年の居場所づくりに関する基本方針について
生涯学習課長 木戸口		・資料により説明
委員長 14番 佐藤	質疑	
委員 2番 吉田		・説明の中で、「利活用検討組織の立ち上げを一度保留し」とあるが、令和7年度には、体制を整えていくということでしょうか。
生涯学習課長 木戸口		・利活用検討組織の立ち上げを一度保留し、まずは教育委員会のみならず庁内全体で方針を固めるような体制づくりを行いたいと考えている。
委員 2番 吉田		・子供の居場所づくりに関して、教育分野だけではなく、関係する福祉分野等も含めた検討委員会を組織する考えか。
生涯学習課長 木戸口		・教育委員会では居場所づくりに関する方針について、青少年プラザの今後について協議する場として考えていたが、居場所という位置づけの中で、教育委員会単独で考えることは望ましくないとの考え方のもと、関係部署と一緒に協議をしていくこととした。
委員 2番 吉田		・教育委員会が主導する形で役場内全体で関係する部署にも声かけし、青少年プラザだけではなく、全体で考えていく理解でよいか。
生涯学習課長 木戸口		・体制づくりについては、教育委員会から声かけをして、今年度中に予備調査などを行い具体的には7年度以降進めたい。

## 令和6年第10回総務文教常任委員会 要点記録

委員	2番	吉田	<p>・高校生との意見交換の中でも、学校や自宅とは別の静かに勉強する場所であったり、学校・自宅ではない公共の中で自分たちが自由に行ける場所が欲しいとの意見もあった。それが青少年プラザやみなくるは該当しないと受け取った。</p> <p>・今年6月に「子ども・若者育成支援推進法」が変わった。その中でヤングケアラーの位置づけも変わってきている。努力義務ではあるが本町では「子ども・若者計画」が策定されていないので、関係する部署が個々に取り組んでいる。なので横断的に取り組んでいかなければ中々解決しない問題と考える。</p> <p>・法律等に基づいて庁内横断的に令和7年度から色々な意見を出し合える場を設けて方向性を決めていきたい。</p> <p>・本町の自殺対策の計画を見ると、教育委員会ではSOSの出し方に関する教育を推進するとしているが、何年かに1回の教育をする内容なので、相談支援の窓口などから手がけていかないと、なかなか難しい問題だと思う。総合的に連携して子供・若者支援の計画を作っていくと難しいと思う。</p> <p>・ほかに何かあるか。</p> <p>・なし。</p>
副委員長	8番	田村	
教育部長		宮本	
副委員長	8番	田村	
委員長	14番	佐藤	
委員		一同	
委員長	14番	佐藤	
委員長	14番	佐藤	
学務・スポーツ課主幹		立澤	
委員長	14番	佐藤	
委員		一同	
委員長	14番	佐藤	
委員長	14番	佐藤	

議事2 その他

(3) ワールドカップについて

・本町出身のスピードスケート選手の活躍と成績を報告する。新濱立也選手、森重航選手、野々村太陽選手、森野太陽選手の4名が、ワールドカップスピードスケート競技会に出場しているが、ワールドカップ第2戦までの最高成績は、新濱選手は長野大会の500m2本目で2位、中国大会の500m1本目で3位、森重航選手は、長野大会の500m1本目で8位、中国大会の500m2本目で7位、野々村選手は、長野大会の1,500mで5位に入賞、森野選手は、5,000mに出場し世界の舞台で活躍している。

確認事項

・なし。

閉会挨拶

15:22 閉会